

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170201515		
法人名	メディカ・サポート株式会社		
事業所名	グループホームだんらん		
所在地	米子市富士見町2丁目132番地		
自己評価作成日	令和 2年 2月 26 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/317/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&Ji_gyosyoCd=3170201515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和 2年 3月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだんらんは、家庭的な雰囲気の中で、利用者様が「できること」を職員と一緒に見つけ、日々新しい発見をしています。
利用者様が安心して暮らして頂けるよう、一人ひとりにあったケアに取り組んでおります。また、地域の中の施設を目指し交流を大切にしています。
一度だんらんにお越しください、利用者様の笑顔に癒されますよ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「喜」「怒」「哀」「楽」の基本理念のもと利用者のありのままを受け入れ決め細やかな支援を行なわれています。
職員は声掛けや介助、日々の生活から思いや意向を汲み取られています。
重度化が進み入居者の活動も制限されてきていますが、職員は利用者へ家族のように接し、認知症の進行や身体機能の状態を理解され寄り添う支援を行なわれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「喜怒哀楽」の理念をカンファレンスや朝礼時等で共有し、実践につなげるよう努めている	[喜怒哀楽]の理念をカンファレンスや朝礼時等で共有され実践されています。理念に共感され入職される職員がおられます。新人職員は法人の新人研修で理念を学び、部署に配置されます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や一斉清掃への参加、また公民館祭には利用者さんと一緒に作った作品を出展し、見に出かける等、地域の一員として交流を続けている	地域の一斉清掃や地区運動会には職員が参加され地域の方と交流が継続しています。公民館祭に作品を出展し利用者と共に作品を見に行かれます。地域のボランティアの方来て頂かれています。中学生の職場体験や高校生のボランティアも交流があります。「介護の日」のイベントでは介護や認知症の相談も行なわれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談は随時受け付けている。「介護の日」のイベント開催や、2ヶ月に一度のサロン活動等で地域に向けた発信は続けている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催している運営推進会議で現状報告を行い、サービスの向上に活かせるよう様々な情報交換を行っている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催にされています。事業所報告を行なわれています、自治会長から地区の情報等助言をもらわれ、意見等検討されサービスに活かされます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進会議で実情を伝え情報の共有を図っている。また、困難事例や事故報告等、積極的に相談し助言や問題解決に向け連携を図っている。	運営推進会議に担当者の参加や研修等の連絡を頂いています。頂いています。感染症等への十分な予防について注意喚起の徹底を図る事の意見要望がありました。困難事例や事故報告等の相談、助言など頂き、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し全職員で共通意識を持つよう取り組んでいる。「身体拘束はしない。」の思いでケアにあたり研修にも積極的に参加している	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、全職員にも周知が図られており、「身体拘束はしない」ケアに取り組まれています。内部、外部研修参加や勉強会も行われ理解されています。「スピーチロック」に気をつけてケアが行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修、勉強会に参加し伝達講習等を通し情報を共有、理解し虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通し、全職員が制度について学ぶ機会を持っている、また必要に応じ支援が活用できるよう働きかけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は丁寧に時間をかけ理解・納得が得られるよう努めている、また利用中のリスクについても説明し同意を頂いている、利用者や家族の不安、疑問が解決できるような説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置したり、外部評価委員の連絡先をご家族に伝えている、またご意見を頂いた際は職員間で共有し運営に反映させており、外部にも公表できるシステムをとっている	事業所1階に意見箱が設置されています。家族は面会時に管理者、担当職員に意見・要望を直接話される方が多く、電話でも受付ておられます。遠方の家族にはケアタウンやよいかわら版の送付やケアプラン更新の際に、電話で意見・要望を伺われています。頂いた意見、要望に関しては、カンファレンスや職員会議で検討されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや賞与前の自己評価、個人面談、普通の雑談等、日頃から職員の考えや意見を聞く機会を作り現場等に反映できるよう取り組んでいる	月1回のカンファレンスや賞与前の自己評価、個人面談等で意見・要望を聞く機会を持たれています。利用者の状態の変化がある場合ミニカンファレンスを行いケアに活かされます。日頃から職員の考えや意見を聞く機会を作り、サービスに反映できるよう努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を踏まえ把握した上で職場環境作りに努めている、また職員それぞれの持ち味が引き出せるよう取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修、勉強会の機会を確保し常に自己研鑽に努めて頂いている、職員一人ひとりの経験、実力に合った研修会への参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し情報交換を行っている、また年に一度の相互研修にも参加し事例検討や情報交換、質の向上に向けた取り組みを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談の際から不安や要望、本人の思いが引き出せるよう、またその後の安心した生活が提供できるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際から家族の不安や要望、思いが引き出せるよう些細な事でも聞く姿勢を持ち関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居問い合わせや見学等で個々のニーズを見極め、グループホーム以外の各種サービスの説明をしたり、今必要なサービスを提案する等柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員双方が楽しく一緒に作業を行い、助け合う中で、暮らしを共にする者としての関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや不安を言って頂けるような関係づくりに努め、日々の様子を伝えながら解決すべき課題には一緒に話し合っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と自宅に帰ったり、馴染みの美容院に行き関係性の継続を図っている、また他部署との交流も含め支援している	家族と病院受診時に地域の馴染みの方や友人と出会う方もあります。自宅が気にかかる方は職員と一緒に帰り様子を見て安心されます。併設の小規模多機能事業所利用者との交流が継続しておられる方もあります。その方に合った馴染みの場所や人との継続支援が行なわれています。	外出の後、馴染みの方と合われた後は、ホームで昔話をしてもらおう事が回想法に繋がって行かれると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、他者を気遣う言葉が聞かれる事もある、職員が会話の架け橋となり、支え合えるような関係作り、支援に取り組んでいる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族との交流も継続している(年賀状や野菜の差し入れ、行事や会議への参加等)必要に応じ相談、支援にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの情報収集、思いを汲み取り意向に沿えるよう努めている、困難な場合は本人本位の視点で生活歴等を踏まえ職員間で話し合っている	入所時のアセスメントや本人、家族から情報収集を行い思いや意向の把握に努められています。意思表示が殆どできない方は、家族からの生活歴等の情報を基に職員で話し合われ本人本位になるようおのさされています。	思いや意向から生きがいや目標に繋がれれ炉ことに期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からのこれまでの生活歴を情報収集し、生活環境を踏まえながら一人ひとりに合った支援に繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に日課は作らず、一人ひとりの生活リズム、心身状態の観察を行い、その日の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の想いはもちろん、面会時には家族の意見も聞き、把握しカンファレンス等で全職員が情報を共有している。また共通意識を持ちながら介護計画を作成している。	本人の思い、家族の意向等を基に担当職員を中心にカンファレンスを行い「できること」「できないこと」を把握し、全職員が情報の共有し、サービス担当者会議を開催され介護計画が作成されています。モニタリング、評価6ヶ月に1回実施されています。状況に変化がある時は評価・見直し行なわれます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の些細な様子、変化を個々のカルテに記載、職員間で共有できるよう連絡ノート等を活用している、また必要に応じカンファレンスを開催し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の思いを大切に柔軟な支援ができるよう職員間で話し合っている、また併設する小規模多機能とは常に協力体制を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会やボランティアの方と交流できる機会を作り楽しい時間が共有できるよう努めている、また近隣の魚屋、八百屋、デパートへもかけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の嘱託医による月に2回の往診実施また協力医療機関以外の受診時は、家族と協力しながら情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している	利用者の希望により、全員協力医をかかりつけ医とされています。協力医は月2回往診されます。整形外科や眼科受診は家族が同行が基本となります。受診時は連絡ノートを家族に渡し状態が分かるようにされています。皮膚科は往診もされています。他科受診を家族が無理なときは看護師、職員同行受診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化、情報を共有し報連相に努めている、また急変時は看護師に連絡し指示がもらえるよう体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は職員が交代で面会に行ったり、早期退院に向けケアマネが中心となって医療機関との連絡調整に努めている。定期的に病院関係者との情報交換も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と情報交換を行いながら全職員で重度化、終末期についての指針を共有しカンファレンスを行っており、チームで支援できるよう取り組んでいる	入所時に家族に重度化や終末期の方針について説明されています。重度化や終末期の対応は本人、家族と十分な情報交換を行い、思いや意向の把握しておられます。かかりつけ医から家族に説明が行なわれ重度化、終末期の指針を共有しチームで支援に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し急変時や事故発生時についてカンファレンスや事故防止について、話し合いを重ねている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している、課題もあるが地域の方とも協力体制を取りながら取り組んでいる	災害マニュアルを作成されています。年2回火災・地震想定避難訓練が行われています。地域の方との協力体制が図れるよう取組まれています。備蓄は水、食料、ランタン、カセットコンロが用意されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の言葉や想いを否定せず、自尊心を傷つけないような対応を行っている。また一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけを行っている	ホーム内で接遇研修が行なわれています。職員は本人の言葉や思いを否定せず支援が行われています。人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が指示するのではなく、本人の口から思いが表しやすいような雰囲気作りに努めている ゆっくり関わる中で、自己決定ができるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間や日課、職員の都合に囚われず、本人の希望、要望が可能な限り実現できるような関わりを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事等、その日、その人に合った身だしなみやおしゃれができるよう選択肢を増やし、支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好みや形態に合わせた食事を提供している、職員と一緒に食事作りや盛り付け等、食事に関わることができるよう、また自分で食べる楽しみ、力を奪わないよう支援している	利用者と職員が一緒となり、食事の準備や片付け等出来る利用者にはお願いしておられます。メニューも利用者の要望を聞き、一人ひとりに合わせた食事形態で手作りで提供されています。行事食や外食も行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりのその日の状態を十分観察、把握し柔軟で臨機応変な対応、支援ができるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの口腔状態を把握したケアに努めている、できる所までは自分でしてもらえようような声かけ対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを観察、把握し日中はトイレでの排泄を支援している、布パンツへの移行、意思表示される方にはその都度対応し自立に向けた取り組みを行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握されています。布パンツと尿パット使用から布パンツへの移行希望の方は自立に向けた取組みが行われています。日中は全員トイレで排泄の支援が行われています。夜間、安全のためポータブルトイレを使用の方もおられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用は最小限、最終手段とし、日々の運動水分摂取の確保に努めている、また繊維質の多い食材を提供する等の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合った入浴を楽しんで頂いている(菖蒲湯、ゆず湯等)曜日、時間に囚われず、本人の希望に合わせた支援を行っている	週2回午前10時ごろから夕方まで入所者の希望を伺い入浴支援が行われています。重度の方はシャワーチェアを使用し2人介助で入浴が行われています。菖蒲湯、柚子湯等季節に合った入浴も行われています。寒い時期は希望があれば足湯も行われます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は1人ひとりに合った活動、休息ができるよう支援している、夜間は安眠が促せるような声かけ、対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的、副作用等について理解するよう努めている、副作用や状態に合わせた内服がなされているか定期的に嘱託医、看護師、全職員で連携を図り見直している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや役割、気分転換に繋がるよう一人ひとりに合った活動の提供を行っている(食事準備や片付け、洗濯物、買い物・ゴミ捨て等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮し、本人からの言葉で行き先を決定し外出できるよう支援している、また家族と自宅へ帰ったり、ドライブに出かけたり、近隣の散歩では地域の方との交流も図っている	天候の良い日には、ホーム近くの公園等に散歩に出掛けられます。本人の希望により行き先を決め希望の外出支援も行われています。季節の行事で花見や紅葉狩りに出掛け楽しまれています。家族と自宅へ帰る方やドライブに出掛ける方もおられます。いこいの家でカラオケを楽しまれる方やホーム周辺の散歩では地域の方との交流ができ入居者の方は喜ばれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお預かりしているが、外出や買い物時は、本人に財布を持ってもらい支払う等お金と関わる場を提供している、一方的に管理してしまうのではなく一緒にお金と関わる支援を目指している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける事は難しいが、手紙や小包のお礼に電話やお礼状のやり取りができるよう支援している、年賀状は毎年、本人と一緒に作成し家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は掃除・換気・消毒を行い、居心地よく過ごせるような環境作りに努めている、また花や小物を飾るなどし季節感が感じられるよう工夫している	共有空間は毎日掃除、換気、消毒をされ居心地よく過ごされています。。玄関に季節の花を飾られています。また、玄関に手づくりお雛様も飾られ季節を感じられました。共用空間には加湿器が置かれ感染症対策が行なわれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が掛け橋となり利用者同士が交流が図れるよう支援している、談話室やソファ等を確認し落ち着いて過ごせる居場所作りを行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談、協力してもらい馴染みの物を配置して心地よく生活できるよう工夫している	本人、家族と相談され使い慣れた家具や家族の写真等置かれ居心地良く過ごせるよう工夫をされています。身体状況によりベッドの位置を変更する等、利用者・家族と相談を行い本人の希望を取り入れながら過ごしやすい部屋となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの「できること」「わかること」を職員が理解するよう努めている、手を出し過ぎず自立した生活が送れるような環境作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容